

IAUD Newsletter vol.7 第6号(2014年11月号)目次

1.「第5回国際UD会議2014 in 福島&東京」プログラムご紹介……………	1
2.衣のUDPJ講演会開催報告……………	9
3.住空間PJ「気づきの事例集」Vol.1 発刊報告……………	12



いよいよ開幕！「第5回国際UD会議2014 in 福島&東京」 充実した国際会議のプログラムをご紹介します

11月9日(日)から5日間、福島と東京の2つの地域で、「第5回国際ユニヴァーサルデザイン会議2014 in 福島&東京」がいよいよ開催されます。

東京でのオリンピック・パラリンピック同時開催の決定により、多様な生活者のための持続可能な共生社会の創造を目的とするUDの考えが再び注目されています。

そこで、今回は「UDのグローバル展開～東京2020オリンピック・パラリンピックへ向けて～」をテーマに、国内外からの専門家によるセッションや論文発表、市民にも親しみやすい内容での基調講演や公開ワークショップ、展示会が開催されます。

今号のNewsletterでは、会期5日間のプログラム概要をご紹介します

※プログラムや開催日時の詳細は国際会議公式ホームページをご覧ください。

<http://www.ud-2014.net/>

11月9日(日曜日) プレカンファレンス フィールドサーヴェイ

■フィールドサーヴェイ(A、B、Cの3つのルートからなる貸切バスツアー)

東日本大震災から既に3年半が経過しますが、いまだに仮設住宅で暮らす人々は岩手、宮城、福島の3県で約9万人にのぼるとされています。

さらに、福島県においては県外避難者は4万7000人を超え、すべての雇用を吸収できるほど産業が回復していないなど、被災地の復興は思うように進んでいないのが実態です。

そこでIAUDは、UDの手法で福島の問題の解決に挑むべく、「復興と再生のUD」をテーマにフィールドサーヴェイを行います。

参加者は3つのルートに分かれ、それぞれの地域の被災および復興状況を視察します。そして、現地の人々との対話を通し福島に再生にUDで何ができるかを海外および国内の参加者と共に考え、翌日の公開ワークショップで具体的なデザイン開発と事業提案を行います。

詳細は下記のサイトをご覧ください。

<http://www.ud-2014.net/program/fieldsurvey.html>

11月10日(月曜日) プレカンファレンス ビッグパレットふくしま

会場となるビッグパレットふくしま(福島県郡山市)において、午前中に行われる「UD のグローバル展開～復興と再生の UD」をテーマにした公開シンポジウムでは、国内外から専門家を招聘しての基調講演及びパネルディスカッションを行ないます

午後は前日のフィールドサーヴェイの調査結果をもとに、3つのテーマごとに公開ワークショップを行ないます。



■公開シンポジウム 9時30分～12時00分

- ◆基調講演 1:人口統計・風土+災害:21世紀の復興計画としてのユニヴァーサルデザイン
ヴァレリー・フレッチャー(人間中心デザイン研究所所長:米国)
- ◆基調講演 2:福島での人材育成と復興への貢献
半谷 栄寿(一般社団法人福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会 代表理事)
- ◆パネルディスカッション:放射能への正しい理解と風評被害の解消
番場 さち子(ベテランママの会代表/番場ゼミナール塾長)
相馬 行胤(旧相馬中村藩主家 34代目)



■公開ワークショップ 13時00分～17時00分

グローバルファシリテーター6名、ローカルファシリテーター3名、そしてIAUD協同事業検討委員のコーディネーター2名を中心に、昨日に実施したフィールドワークの調査結果をもとに、公開ワークショップで問題を整理統合します。

本会議 11月11日(火) 東京国際交流館

会場を東京に移し、東京国際交流館国際交流会議場(東京・江東区)にて本会議が3日間行われます。

初日には開会式や公開シンポジウムが開催されます。また、併設展示会も一般公開されるほか、夜には会議参加者の歓迎レセプションも行います。



■開会式 10時00分～10時40分

開会式には総裁である瑤子女王殿下から御言葉を頂戴するほか、安倍晋三内閣総理大臣よりビデオメッセージでの来賓のご挨拶があります。

また、舛添要一東京都知事と山崎孝明江東区長より、共催として歓迎の御挨拶をしていただきます。

※開会式へは、会議参加登録が必要となります。

■公開シンポジウム 12時30分～16時00分 国際交流会議場

◆基調講演 1: 障害者のためのデザインからインクルーシヴデザインへ

マリア・ベンクソン(ヴェリデイ代表:スウェーデン)

◆基調講演 2: 大和心とユニヴァーサルデザイン 美輪 明宏(歌手/俳優/演出家)



撮影：御堂義乗

◆パネルディスカッション: UD のグローバル展開 ～東京 2020 オリンピック・パラリンピックへ向けて～



オンニ・エイクハウグ(ノルウェーデザイン&建築センタープログラムリーダー:ノルウェー)

太田 幸夫(NPO 法人サインセンター理事長/IAUD 評議員)

シルヴィオ・サグラモラ(欧州障害フォーラム代表:ルクセンブルグ)

リカルド・ゴメス(サンフランシスコ州立大学教授:米国)

コーディネーター: 藤木 武史(IAUD 理事)

■IAUD アワード 2014 プレゼンテーション/表彰式

16時20分～18時00分 国際交流会議場



「IAUD アワード 2014」は、持続可能な共生社会の実現に向けた革新的なUD活動や提案を広く国内外に求め、厳正な審査により優秀作を表彰するものです。当日は選考委員会による審査結果を会場において発表し、受賞者に賞を授与します。

今回は「大賞」「金賞」「銀賞」「アワード賞」などの各賞を予定しています。また、金賞以上の受賞者には取り組みを紹介するプレゼンテーションを行なっております。

■**歓迎レセプション** 19時00分～20時30分 日本科学未来館7階
ご来賓、登録参加者、主催関係者を対象としたレセプションです。

■**展示会** 12時30分～18時00分

屋内展示が東京国際交流館1階エントランスホール及び3階フォワイエで、屋外展示が東京国際交流館交流広場で、3日間にわたり行われます。

屋内展示では、国内外の企業及び団体が多数出展し最新UD実例・製品を紹介します。

屋外展示では、東京消防庁、陸上自衛隊などからご協力いただき、災害時に活躍するさまざまな車両や機材を展示するほか、UD自動車の試乗も実施します。

また、陸上自衛隊による福島県産の安全検査済みの食材を使用したカレーライスの炊き出し実演と試食会も予定しております。

展示会は登録不要で、どなたでもご自由にご覧いただけます。



11月12日(水曜日) 本会議 東京国際交流館

UDにかかわる様々なテーマについてのセッションや論文発表セッション、ランチセッションからなる本会議が行われます。また、今回は市民にも親しみやすいテーマの公開ワークショップも開催されます。

■セッション1:復興と再生のUD(福島からの報告)

9時00分～10時20分 国際交流会議場

11月9～10日に福島のプレカンファレンスで実施するフィールドワーク及びワークショップの報告を行ないます。東日本大震災で大きな被害を受けた福島県および東北地方の復興と再生に向けた事業提案あるいは政策提言へと導きます。



富樫 美保(NPO 法人 ユニバーサルデザイン・結 代表理事)

オンニ・エイクハウグ(ノルウェーデザイン&建築センタープログラムリーダー:ノルウェー)

インマ・ボネット(デザインフォーオール財団最高顧問:スペイン)

フェルナンダ・ジオルダニ・バルボサ・ハラダ(デザインフォーオール財団:スペイン)

コーディネーター:細山雅一/永木康人(IAUD 協同事業検討委員)

■セッション 2:東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会へ向けて
10時40分～12時00分 国際交流会議場

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会へ向けて、東京の街を世界からの観光客や障害者、高齢者にも安心して快適に暮らせる生活環境にしていくためには、一体何を行なうべきか、UDの観点から見て、今後どのような改善や提案が望まれるか等、それぞれの講師のプレゼンテーションと会場との意見交換を通して考察します。



飯塚 和憲(日本デザイン振興会理事長/IAUD 評議員)
太田 幸夫(NPO 法人 サインセンター理事長/IAUD 評議員)
ヴァレリー・フレッチャー(人間中心デザイン研究所所長:米国)
司会進行:高橋 陽子(日本フィランソロピー協会理事長/IAUD 評議員)

■セッション 3:江戸から東京、そして未来へ1～文化と科学が融合する東京
13時20分～14時40分 国際交流会議場

江戸の祭り、歌舞伎、相撲などの伝統文化と耐震高層建築や安全正確な新幹線に象徴される先端科学技術が渾然一体となって融合している大都市東京の魅力を比較文化論的アプローチから考察します。

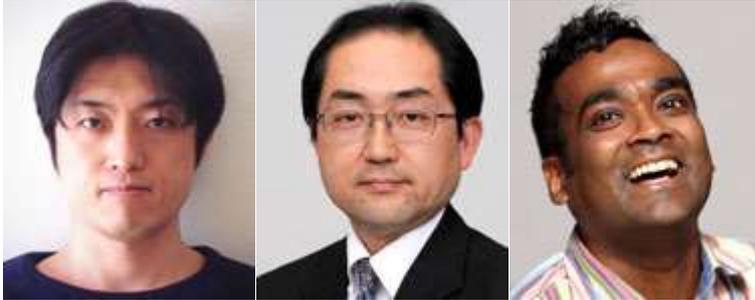


米山 勇(江戸東京博物館研究員)
内田 まほろ(日本科学未来館展示企画開発課長)
フランセスク・アラガイ(デザインフォーオール財団代表:スペイン)
コーディネーター:奥田 高子 (IAUD 理事)

■セッション 4:江戸から東京、そして未来へ2～持続可能な共生都市の創造

15 時 00 分～16 時 20 分 国際交流会議場

臨海副都心まちづくり構想に代表される東京の未来都市ビジョンや復興地や未災地での街づくりはどのように描かれるべきなのか、そこには UD の考えがどのように生かされているのか、またビジョンを現実に落とし込む上でどのような苦労や問題点があるのか等、それぞれの講師のプレゼンテーションと会場との意見交換を通して考察します。



羽鳥 達也(株式会社日建設計 設計部主管)

福田 至(東京都都市整備局企画担当部長)

ラーマ・ギーラオ(英国王立芸術大学院ヘレンハムリンセンター副所長:英国)

コーディネーター:西川 昌宏 (IAUD 理事)

■東京ワークショップ 9 時 00 分～18 時 00 分 会議室 2&3

11/12(水)と13日(木)に、IAUD 研究部会の各プロジェクト/ワーキンググループの活動をベースとする、テーマ別ワークショップを開催します。

6 つのテーマ毎にそのテーマに沿った有識者や多様な人々の参加により、「フィールドワーク」や「体験セッション」を実施し、観察や体験のリアリティの中から解決すべき課題や未来への兆しとなるメッセージを抽出し、方向性を可視化していきます。

ワークショップのファシリテーターは、HCD、デザイン思考、フューチャーセンター・セッションなどを日ごろから実践している専門家が担当します。

初日には以下の 5 つのワークショップが行われます。

- ・移動空間プロジェクト/メディアの UD プロジェクト「公共空間の移動をしやすくする情報について考える」
- ・衣の UD プロジェクト「災害時に必要な「衣」の要素抽出」
- ・ワークスタイルプロジェクト「多様なワークスタイルの兆しから未来の働き方を考える」
- ・標準化ワーキンググループ&手話サブワーキンググループ「グローバルボディランゲージ」

※詳細は以下のサイトをご覧ください。

<http://www.ud-2014.net/program/workshop.html>

■ランチョンセミナー 12 時 00 分～13 時 20 分 メディアホール

各企業の UD 方針や製品事例を、昼食をとりながら紹介する特別セミナーです。今回はパナソニック株が開催します。

■論文発表セッション 9時00分～18時00分 メディアホール&国際交流会議場

国内外から応募のあった147の論文(アブストラクト提出数)の中から厳正な審査を通過した論文を12日と13日の2日間、テーマごとに10のセッションに分けて発表します。

12日は「オリンピック・パラリンピックへの提言」「UD 理念と実践」「住宅・建築」「交通」「製品デザイン」「地域デザイン」をテーマにした論文が発表されます。

■ポスターセッション・4階フォワイエ

国内外から応募のあった論文の中から審査を通過した論文を、ポスターにて発表します。

11月13日(木曜日) 本会議 東京国際交流館

会議最終日には、5日間にわたる会議全体を総括するプログラムが実施されます。また、閉会式では「国際ユニヴァーサルデザイン宣言 2014」が発表されます。

■セッション6:地球的思考と地域的行動1～グローバルレポート(世界からの報告)

9時00分～10時20分 国際交流会議場

欧州と米国におけるUDの最新事情を報告していただきます。日本におけるUDのさらなる普及発展に参考となるポイントは何か、さらにBRICsほか新興国や発展途上国へのUDの円滑なテクノロジートランスファーが可能なのかも考察します。



シルヴィオ・サグラモラ(欧州障害フォーラム代表:ルクセンブルグ)

リカルド・ゴメス(サンフランシスコ州立大学教授:米国)

ショーン・ドナヒュー(アートセンターデザイン大学教授:米国)

コーディネーター:成川 匡文(IAUD 参与)

■セッション7:地球的思考と地域的行動2～48時間デザインマラソンの報告

10時40分～12時00分 国際交流会議場

IAUDが実施する事業の中で、参加者(企業)に最も定評のある活動の一つが「48時間デザインマラソン」です。

障害者をユーザーとしてチームに加え、フィールドリサーチを行いながら普段見過ごしがちな「気づき」を見つけ、48時間と言う限られた時間でデザインを提案していく手法は、10年以上の実践および実績を通して完成の域に達してきています。

このセッションでは、9月に実施された「48時間デザインマラソン in 東京」の成果報告に終わ

らず、ユーザーとワークショップ参加デザイナーがセッション形式で衣・食・住・移動・労働など様々な観点から今後のデザインの方向性を議論します。



荒井 利春(金沢美術工芸大学名誉教授)
藤木 武史(IAUD 理事/WS 委員会委員長)
コーディネーター:木暮 毅夫(IAUD 参事)

■セッション 8:「東京 2020+」に向けた提言～東京ワークショップからの報告
13 時 20 分～14 時 40 分 国際交流会議場

IAUD 研究部会主導で 11 月 12～13 日に実施される東京ワークショップの成果概要を報告します。

穂本 敬子(IAUD 参事/研究部会長)
江藤 祐子(IAUD 参事/研究副部会長)
木暮 毅夫(IAUD 参事/研究副部会長)

■セッション 9:クロージングセッション:UD のグローバル展開～復興と再生の UD/東京 2020 オリンピック・パラリンピックへ向けて
15 時 00 分～16 時 20 分 国際交流会議場

「UD のグローバル展開～東京 2020 オリンピック・パラリンピックへ向けて」のテーマのもと開催したメインカンファレンス、および「復興と再生の UD」のサブテーマで開催したプレカンファレンスの全体を総括し、特に強調すべき成果は何か、新たに明らかになった点は何か、また今後さらに議論を進めるべきポイントは何か等、IAUD 評議員でもある国内外の UD 関連団体代表の方々とともに話し合います。

ヴァレリー・フレッチャー(人間中心デザイン研究所所長:米国)
フランセスク・アラガイ(デザインフォーオール財団代表:スペイン)
山中 敏正(日本デザイン学会会長/IAUD 評議員)
コーディネーター:川原 啓嗣(IAUD 専務理事)

■東京ワークショップ 9 時 00 分～12 時 00 分 会議室 2&3

2 日目は、以下の 2 つのテーマのワークショップが実施されます。

- ・住空間 PJ「仮設住宅を考える(これからの日本の住宅を考える)」
- ・標準化ワーキンググループ「やってみよう! UD(ひとつの発見、そして未来へ)」

■閉会式 17時00分～18時00分 国際交流会議場

全論文の中から選考される「優秀論文表彰」の発表や、「国際ユニヴァーサルデザイン宣言2014」が公開され、閉会となります。

■論文発表セッション 9時00分～18時00分 メディアホール

13日はテーマ「Berkeley Prize」、「UD 理念と実践」、「情報デザイン」、「地域デザイン」、「地域デザイン」の論文が発表されます。

■ポスターセッション 4階フォワイエ

国内外から応募のあった論文の中から審査を通過した論文を、ポスターにて発表します。

※プログラム内容、日時、会場等に変更する場合がありますので予めご了承ください。

触って色が分かる商品を開発

活動報告:衣の UDPJ 講演会「触覚タグ、色彩や触覚に関するアクセシブルデザイン」



衣の UDPJ は、9月18日(木)に佐川賢工学博士(産業技術総合研究所名誉リサーチャー/日本女子大学被服学科非常勤講師)をお招きして、「触覚タグ、色彩や触覚に関するアクセシブルデザイン」に関する講演会を都立産業技術研究センター墨田支所生活技術開発セクター(東京・両国)で開催し、同 PJ メンバーなど20名が参加しました。

当日の佐川博士の講演内容を同 PJ 主査の佃氏に報告していただきます。

ユーザー拡大を目指すデザイン

前半はアクセシブルデザインの理解を深める内容をお話しいただきました。

アクセシブルデザインとは、最大の利用者、より多くのユーザー(ユーザーの拡大)を目指すデザインのことです。主な事例には、エレベーターの鏡(車いすユーザーにとって安全が確保される)やシースルーエレベーター(聴覚障害の方にとって不慮の事態の際、身振り手振り文字情報の交換ができる)などがあります。

問題の解決方法には2つのアプローチがあります。

①「製品を変える⇔人間側の状況を変える」:具体的には、製品を変える⇒製品についての説明文字を大きくする、などがあります。

②「人間側の状況を変える⇒メガネをかける」

また、アクセシブルデザイン手法には以下のような事例があります。

- ・JIS 絵記号:コミュニケーション支援用の絵記号が JIS(日本規格協会)によって規格化されたもの。グラフィックデザインという位置づけだった「ピクトグラムサイン」が「シンボル」と融合して絵記号になり、現在 313 個のピクトグラムがあります。
- ・音声をつける:体重計、血圧計など。
- ・振動を加える:体温計、目覚まし機能付き腕時計など。
- ・触覚を利用する:プリペイドカードの切り込み、缶飲料の点字など。

人間特性適合設計

触知図形の基本設計方法が JIS S 0052「高齢者障害者配慮設計指針—触覚情報—触知図形の基本設計方法」により制定されており、現在 ISO に提案中です。

また、文字サイズについては、「年齢・視距離・輝度」「視力」により「最少可読文字サイズ」が決まるが、おおむね 16.6 ポイント(明朝体、数字の場合)、字体としては、ゴシックの方がわかりやすいとされています。

さらに、色覚障害(ロービジョン)への配慮としては、文字の大きさは 100 倍になるとのことです。

「いろポチ」で“いろ”を楽しむ視覚障害者

後半には、「弱視・盲の方に洋服の色を識別する触覚タグ開発」に関するお話を頂きました。

9 月 4 日(木)に NHK で放映された「NHK ニュースおはよう日本」内で、「“いろ”を楽しむ視覚障害者」というタイトルで取り組みが紹介されました。

詳細はこちらをご参照ください。↓

<http://www.nhk.or.jp/ohayou/marugoto/2014/09/0904.html>

多くのユーザーがあることに気付くこと、多くのニーズがあることに気付くこと、配慮点やデザインを考えること、できることから実行すること、それが「いろポチ」開発の出発点となっています。

これは佐川博士と日本女子大学被服科研究室、社会福祉法人日本点字図書館と株式会社フクイの協力を得ての共同研究開発です。

日本全国に視覚障害者は、糖尿病などの後天的な症例を含めると 100 万人いるといわれています。

全盲視覚障害者は色彩に非常に興味があり、自分の着る衣服の色を知りたいという要望があるとのことでした。



色を理解する色相環

色知覚の基本構造である色相環(図 1)と、時計の文字盤のような配置(図 2)を利用しています。

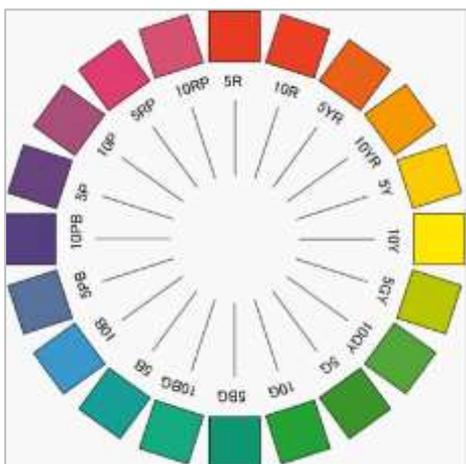


図 1 マンセルの色相環
(ウィキペディアより転載)

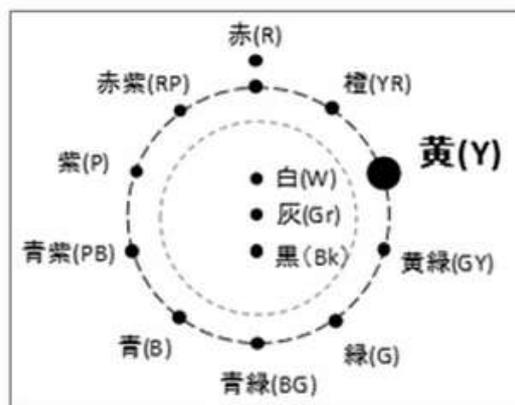


図 2 いろポチの色配列

全盲視覚障害者を対象とした実験では、実際に色を見ていなくとも「ことば」のイメージにより「色相環」を描く結果を得るとのことです。

触って色が分かる「いろポチ」は、ポチポチをさわると色を識別ができるようになっている Tactile Color Tag(タクトイル カラータグ/触覚カラータグ)です。



パンフレット(株式会社 フクイ)



開発タグ(日本女子大学 HP より)

夢は東京オリンピック・パラリンピックユニフォームにもいろポチ

最後に佐川博士は、「2020 年開催の東京オリンピック・パラリンピックで、選手団のユニフォームに(いろポチが)すべてついている！」ことが目標で、そのためにもみなさんのご意見を頂き、よいものにしていきたいと述べられました。

熱い想いが込められた研究開発であり、商品化された現在、その普及を目指されておられます。

講演後、参加者からの質疑も活発に行われました。以下、質問の一部を挙げます。

・タグの付け位置、マンセル色相環の採用経緯について

- ・特許について
- ・明度・彩度について
- ・音・波長について
- ・販路について
- ・社会貢献メッセージとして

今後はより良いモノづくりのために、衣の UDPJ としても連携していきたいと考えています。

10年間のUD 関連施設視察活動の区切りに

活動報告:住空間PJ「気づきの事例集」Vol.1 発刊

住空間プロジェクトはこの度、この10年間の主なUD 関連施設視察レポートをまとめた「気づきの事例集」Vol.1 を発刊しました。

今号の Newsletter では、事例集発刊に至るまでの経緯や冊子のアウトラインを、同 PJ メンバーの阿部郁雄氏、池ノ谷真司氏に報告していただきます。

6事例の視察レポートを掲載

住空間プロジェクトでは、2005年から現在に至るまでUD に関連する多くの施設や建物を視察してきました。

一方で、企業から選抜されたメンバーが活動の中心となっていることから、参加企業の脱退加入、個々のメンバーの異動や退職などによりメンバーの交代が余儀なくされているのも現実です。同時に、視察の際のレポートは蓄積されてはきたものの、あまり活用されていないのが実態でした。

そこで、2014年には国際大会が実施されるにあたり、住空間プロジェクトの約10年の活動の区切りとして視察のレポートを一つの形にまとめて、今後の継続的な活動に役立てようという声があがりました。

2013年から1年をかけ、今までに視察した施設や建物の中から、「ふじようちえん」「沢田マンション」「階段の家」「天命反転住宅」「スライド西荻」「武蔵野プレイス」(順不同)の6事例を選択し、「気づきの事例集」としてまとめました。(上写真)

詳細は冊子本体をご覧ください。ここではアウトラインと全体を通じての所感を述べていきたいと思えます。



施設視察を通じて新たな気づきを経験

先ほど触れたように、IAUD として多くの施設を視察してきた中で、多くの「気づき」が生まれてきました。その中で、これからのUD の発想につながる最も大きなものは、「従来のUD の基本となる『誰にでも使いやすい』という7原則は非常に大切だが、UD の意義はそれだけではないのだろうか」という気づきでした。

その原点は、今回の事例集にも掲載した「沢田マンション」「天命反転住宅」「スライド西荻」や、残念ながら今回は掲載の許可をいただけなかった「夢のみずうみ村」など、楽に安全に過ごせるというUD の視点を超えて、敢えて適度のバリアを設けることで人の機能を維持・発展させようとする空間づくりでした。

また、「沢田マンション」での「人が手すりなどに頼るのではなく、人が注意することでより安全になる」というオーナーの発言が心に残りました。

そして、視察したメンバー間の議論を経て、これらの気づきに共通して言えるのは、特に高齢社会を迎える中、バリアをなくして安心、安全に暮らすだけでなく、人間が本来持つ機能を、楽しく、ストレスを掛けずに維持、発展させることも大切なのではないかと、いうことでした。

更に、それらの空間には「夢のみずうみ村」での、ゲーム感覚（移動をしながら体や頭を使ったゲームを進めるなど）の取り込みで代表されるように、そのバリアをいかに楽しく、又は当たり前のこととして超えさせるかという仕掛けづくりや工夫が盛り込まれています。

これは同時に高齢者に限らず、「ふじようちえん」での屋根と一体になった屋上（上写真）で元気に走りまわり、滑り台を滑り降り、でこぼこの園庭で遊ぶ園児たちにも同様なことがいえるだろう、という気づきでもあります。



ふじようちえん



また、「階段の家」(左写真)での、実際は2階建てにも拘らず、子供が「2階建ての家に住んでみたい」と言ったというような、上下移動のバリアを意識させない空間づくりにおいても、同様の気づきがありました。

←階段の家

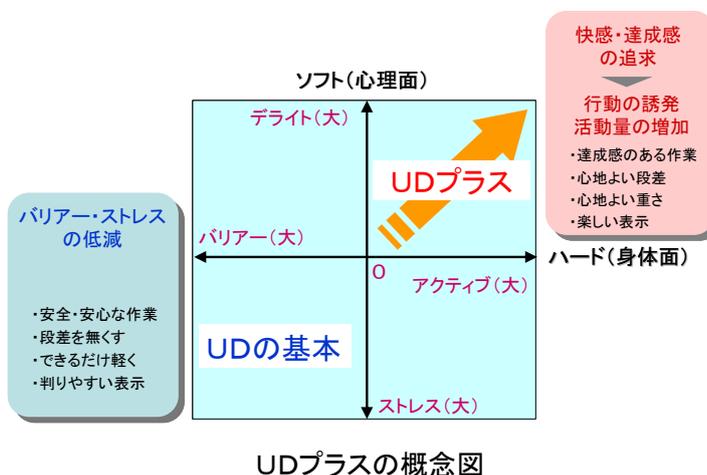
また、別の視点として「武蔵野プレイス」のように、積極的に出会いや活動を生んでいく「場」をつくるという設計コンセプトも、「全ての人のために」というUDの延長線上にあるという気づきだといえます。事実、こんな所だという場所に多くの場や仕掛けが潜んでいました。

そして様々な施設や建物で共通する要素として感じたのは、他の人と「自然に交流できる＝コミュニケーションが生まれる」、すなわち、「ヒトを感じる」空間であるということと、そこにいることが「心地よい」という当たり前の感覚を持つということでした。

「UD プラス」の提唱へ

我々住空間プロジェクトでは、これらの取材を通して多くの気づきを経験する中で、先ほど触れたように、「人間の五感や身体に適正な刺激や負荷をかけることによって本来の感覚や能力を研ぎ澄まし、かつその負荷をいかに楽しく、又は当たり前のこととして超えられるようにするかということで、より豊かな生活を実現できる」のではないだろうか、という考えにいたりしました。

そこで、その考えのもとに、従来のUDに加えた新たな発想として「UD プラス」を



提唱し、2008 年から情報発信に取り組んでいます。

「維持する」から「変化・進化することへ

転がる石に苔が生えないように、「沢田マンション」「夢のみずうみ村」「ふじようちえん」などでは、日々の人々の成長や社会からの要請などの状況に合わせて都度変化しています。

家の庭にある木でも年々大きくなるように、社会環境も含めて我々をとりまく環境は変化し、それに従って空間も変化し、進化していくこととなります。変化を受け入れる空間であることも今後の重要な要素だといえます。

今回の「気づきの事例集」Vol.1 には掲載はありませんが、例えば 2013 年に視察した「コドモ里山ラボ」では、外で遊んでいる子供たちに家からでも視線が届くように設計されています。同時に、自然と森を守る地域の人たちとのコミュニケーションが発生することが期待できるような仕掛けも組み込まれています。

この空間＝場の中で、木々の成長とともに、10 年後、20 年後にはどのように空間が進化し、どのような子供たちが育っていくのだろうか、これは他の施設や建物でも同様ですが興味がないところでは。

多くの方の活動や気づきに役立つように

建築の専門家でない人や文章に不慣れな人も多い寄り合い所帯の住空間プロジェクトで、当初はどのようなものができるのかドキドキの連続でしたが、「なんとか形になったかな」という満足感がある一方で、それぞれの専門の人から見ればどのような感想や批判があるのだろうか、という不安があるのも事実です。

このような思いの中で完成した、住空間プロジェクトとしての「気づきの事例集」Vol.1 が少しでも皆様の活動や気づきに役立つことを願っています。

同時に、これまでの視察の中で、今回取り上げることができなかった多くの事例においても、それぞれに気づきが詰まっており、今後の視察で生まれる新たな気づきと共に、様々な機会でご紹介できればと思っています。

そして、最後になりますが、施主様、設計者の方々などここに列挙できないほど多くの方々にご協力をいただきましたこと、ここで改めて御礼を申し上げます。

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウムなどの開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2014 年 11 月中旬発行予定

特集：「48 時間デザインマラソン in 東京」開催報告／メディアの UDPJ サイン事例研究会実施報告

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net